

私は 2011 年大学に入学する前から大学に入ったら交換留学として日本に行こうと決めたのです。その理由は小学校に入る前から日本語を独学し、中学校・高校の時の第二外国語も日本語を選択、大学に入る時も日本語一本道でこの後の就職も含め日本語を使いながら働きたいと思っていました。そうするためには一生懸命日本語を勉強するのはもちろん、私自ら日本に来て生活しなければいけないと思い、「交換留学」という制度があるのを知ってからはずっとこの「交換留学」のために日本語を一生懸命勉強し、成績も管理して日本に来るのができました。

夢に描いた日本での生活はただ楽しいばかりではありませんでした。初めての一人暮らし、初めての海外生活。日本に来て一週間は私が自信満々だった日本語も急に出なくなったり、毎晩泣いたりもしました。しかし、京都大学に行って韓国では味わえなかった雰囲気の授業を聴きながらその後の日本での生活に対して期待が高まりました。

1 年のみの交換留学の生活だからただ椅子に座って勉強するのは無意味だと感じました。京都だけではなく日本のいろいろな地域に行って日本だけの日本の文化・生活を感じたかったです。実際、今もいろいろな地域に行ってきた日本中でもたくさんの違う生活・文化があるのを感じています。しかし、こう見えてもただ遊んでいるばかりではありません。今は冬休みですが、2013 年 10 月 1 日に来て早速京都大学の後期の学校生活を過ごしながら私が” General Exchange Student” だから授業全部を日本人の学生たちと一緒に混じって全部日本語で授業を受けました。そのおかげで聴解の能力が育てられたと思います。しかも京都大学では韓国ではできなかった種類の科目も勉強でき、それによって地理・歴史・文学・エッセイ等々いろいろなジャンルをテーマにしたレポートを書くことができ会話より少し自信がなかった作文の能力も上達できたと思い、本当に日本に来てよかったです。その中でも一番意味深く記憶に残っている授業は「日本語」の授業でした。その理由は直接日本人の先生から日本の日常の日本語を教わることができてもっと自然な日本語の能力を上達させられる機会になった気がしたからです。確かにその分、見慣れていない擬声語や擬態語などで少しの難しさも感じていましたが、そう感じた難しさこそ私の日本語をもっと成長させられると思います。

初めて日本に来て適応の一週間の時間を除いてからは一般の日本人と普通の日常会話をするのにあまり苦労を感じられず生活してきて私の日本語の実力に満足しそうになった私の甘さを感じることもできとても良い授業だと思います。そして高校のとき、とても好きだった‘地理’の授業も聴きましてその授業では今私が暮らしている京都についてもっと知ることができて面白かったと思います。

そして京都大学では勉強だけではなく、もっと私の時間を過ごしたくて一度しか行ってなかった“合唱部”で一度の部活もやってみたり、KULEPS という留学生のための親睦会にも時々行っていろんな友達と出会い楽しい時間を過ごせることができました。

これから約5ヵ月が残っています。ですが、今でも言えるのが日本に来て本当によかったと思います。なぜなら日本に来て日本語を上達したことももちろんいいですが、日本に来る前の大学1回生、2・3回生まで走り続けて当時一番の目的だった「交換留学」を叶えました。それでとっさにこの後の目的がないのに気づき、思わず私が進んでいるこの道が合っているのか、私の最終目的は何なのか等複雑な気持ちになりました。しかし、ただ走り続けた私が日本に来てゆっくり過ごしながらたくさんの人と出会い、いろいろなことを経験して気を取り直すことができました。今まで六ヶ月の留学生生活を振り替えてみると留学を始めた頃とは精神的なことや肉体的にもずいぶん肯定的に変わったと感じます。だから今後留学生生活が終わり、韓国に帰っても適応などの言い訳をしながら時間をむやみにする気はしません。もちろんここ日本でもゆったりした生活、優しかった人々が懐かしくなって思わずぼさっとするかもしれません。しかし、むしろ懐かしいほどまた日本に戻れるようにこの1年間、正確にすれば10ヶ月の日本生活の思い出を活力素にして頑張って私がやりたい道をちゃんとやっていける気がします。